

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Impact of preconception sodium intake on hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前ナトリウム摂取と妊娠高血圧症候群の関連について

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pregnancy Hypertension

年: 2021 月: 卷: 23 頁: 66-72

筆頭著者名: 経塚標

所属UC名: 福島UC

目的: 妊娠前の塩分(ナトリウム)摂取量と妊娠高血圧症候群との関連について調べました。

方法: エコチル調査にて妊娠前に高血圧を認めない妊婦を対象としました。妊娠中に施行した食事内容の質問調査票への回答から妊娠前の塩分(ナトリウム)摂取量を計算し、塩分(ナトリウム)の摂取量に応じてエコチル調査参加者を5グループに分類しました。塩分摂取量が平均的な量のグループを参照としたときの低塩分摂取グループ、高塩分摂取グループの妊娠高血圧症候群の発症リスクについて調べました。

結果: 本調査参加者のうち85152人が解析対象者となりました。解析の結果、塩分摂取量が一番少ないグループは胎児の成長不全を伴う妊娠高血圧症候群のリスクが上昇しました。

考察:(研究の限界を含める)
本研究の限界はエコチル調査において妊娠高血圧症候群のうち、妊娠高血圧症と妊娠高血圧腎症を厳密には区別していないことです。しかし、胎児の成長不全を伴う妊娠高血圧症候群はより重症の妊娠高血圧症候群である妊娠高血圧腎症に分類されると思われます。さらに妊娠中の降圧薬を考慮した解析ではありませんが、日常の塩分不足により妊娠高血圧腎症のリスクが増えると考えられます。

結論: 生涯の健康のために塩分を制限する必要はいうまでもありませんが、過剰な塩分制限も妊娠高血圧症候群のリスクと考えます。